

ビル・エヴァンスの魅力を解説する3回目のメルマガです、今回で一旦終了します。

エヴァンスは生涯に渡って非常にハイレベルの演奏を残していますが、スコット・ラファロ、ポール・モチアンと組んだトリオの4部作が一番好きというリスナーが、やはり一番多いのでしょうか。これまでも書いてきたラファロの天才的な演奏に触発された結果であることは間違いありません。

◎ラファロ後のベーシスト達

ラファロの突然の死の後で、エヴァンスはベーシストにチャック・イスラエルを招きました（ドラムはポール・モチアン、後にラリー・バンカー）。イスラエルも良いベーシストだと思いますが、ラファロのような強靱なランニングやインタープレイとは方向が違うので、エヴァンスも高い緊張感を持って疾走するような演奏はできなかつたようです。

ただ、選曲や演奏スタイルを工夫しながら、イスラエルと組んだ佳演も残しています。中でも、バラード集のMoon Beamsは良いと思います。ラファロ時代の演奏のような聴き手も演奏に没頭して揺さぶられるような快感とは違いますが、リラックスしながらも曲の良さ、エヴァンスならではのハーモニーをゆっくり楽しめる感じです。If You Could See Me Nowを聴いてみましょう。

https://www.youtube.com/watch?v=d1NqObVK1JI&list=PL0q2VleZJVEndaQ-M2vrY5K2_aUJksVN&index=5

1966年に、ベーシストはエディ・ゴメスに代わります。ゴメスは7年間もエヴァンストリオのレギュラーを務めてたくさんの録音を残していますが、個人的にはゴメスが好きではありません。ラファロと比べてラインがメロディアスに聴こえないのと、速弾きをするために弦高を低くしているので、特にベースソロの時に弦が指板に当たってバチバチと音を立てるのが気になります。

ただ、スピード感はあるので、エヴァンスもイスラエル時代には難しかったと思われるテンポの曲も演奏するようになり、その点では良かったと思います。ゴメスと組んだ演奏の代表作の一つがスイス・モントルーでのライブ盤です。At The Montreux Jazz Festivalの中からNardisを聴いてみましょう。

<https://www.youtube.com/watch?v=mrpsUKzDdIw>

テーマの後エディ・ゴメスがベースソロを取り（ここは自分的には飛ばしたくなりますが）、2分3秒あたりからエヴァンスのソロになります。エヴァンスの左手は、最初はオーソドックスに1小節に1回コードを弾いているのですが、3分10秒辺りからコードを弾く回数が増えてきて、右手の単音アドリブと近いタイミングになってきて、3分23秒付近からは右手の音符とほとんど同じ時刻に弾いて行っているのが分かると思います。これがエヴァンス独特のスイング感につながっていると感じます。ジャズの醍醐味を感じますね！

◎エヴァンスとデジョネットの見事なインタープレイ

このトラックの聴き所はジャック・デジョネットの刺激的なドラミングです。まず、テーマを弾くエヴァンスに繊細で切れ味の良いシンバルで寄り添うように修飾していきます。2分24秒あたりからの裏拍を強調した細かいオカズの入れ方、ベースがリズムの変化をつけた時の即応の仕方など、細かいところで実によく行き届いていて快感です。エヴァンスのインタープレイというとベースとのかけあいが強調されますが、ここで聴くデジョネットとのインタープレイもまた見事です。

3分49秒あたりからドラムソロが始まります。すべてのアタックをコントロールし切った精緻な切れ味が見事の一言ですし、斬新な譜割りが多く、普段はあまりドラムソロが好きではない自分も聴き惚れてしまいます。エヴァンスの音楽を深く理解した素晴らしいドラミングです。録音も良いので、スティックがシンバルを叩く繊細なタッチもよく表現されています。

エヴァンスの最晩年（1978～1980年）にはゴメスの後釜として自分の好きなマーク・ジ

ジョンソンが入りました。この人の特徴は何といっても独特の音質です。ちょっとエレキベースっぽいのですが、音程がクリアに聴こえてきます。ピッチも正確です。現代のベーシストらしく、小節の頭でルートをあまり弾かない感じなので、ラファロよりコード感をつかみづらいですが、エヴァンスのピアノにはぴったり合っていますね。

ラストトリオのBeautiful Loveを聴いていただきましょう。マーク・ジョンソンのベースソロも良いです。

https://www.youtube.com/watch?v=IeDufyIIdem&list=0LAK5uy_IBWHBQQzRo-D3RCVUQpAJBff5mB0nT-Q

同じアルバムでエヴァンスがソロピアノを弾くI Loves You Porgyも良いですね。

https://www.youtube.com/watch?v=qWctoE70X4Q&list=0LAK5uy_IBWHBQQzRo-D3RCVUQpAJBff5mB0nT-Q&index=5

◎ジム・ホールとの名作デュオ「Undercurrent」

エヴァンスといえばピアノトリオというイメージですが、異色の組み合わせによるデュオの名盤もあります。その一つがジム・ホール(gt)と組んだUndercurrentです。ラファロ時代のリバーサイド4部作以上にこのアルバムが好きというリスナーも少なくありません。この中から有名なMy Funny Valentineを聴いてみましょう。

https://www.youtube.com/watch?v=-N_9xpWXVU

バラードで演奏されることの多い曲ですが、ここでは速めのテンポが設定されています。エヴァンスとホールががっぷり組んで一部のスキもないインタープレイを繰り広げています。一般的に言えば、コード楽器同士であるピアノとギターは、テンションが半音でぶつかって音が濁る可能性があり、サウンド的には難しいとされていますが、ここでは全く感じさせません。

テーマの後、最初はホールのソロ+エヴァンスのバックング、2分33秒からは立場が逆になります。ソロのフレーズは自然と耳に入ってくると思いますが、敢えてバックングの方にフォーカスして聴くと、今までと違った楽しみ方ができると思います。二人ともスゴイです。

エヴァンスのバックングは、2分12秒から始まるサビ部分での裏拍を使った乗り方を始め、そこにホールがからんでカッチリ噛み合うあたりがとてもスリリングです。ホールのバックングでは3分9秒付近からビートに合わせたカッティング奏法が始まり、小気味よくスイングします。

この演奏でもう一つ自分が感じるのは、無音の一瞬の面白さです。当然、ソロでもバックングでも、常時音を出し続けてはいないのですが、常に音を出しているドラムがないため、どちらの音も聴こえない無音の一瞬が必ず生まれます。

特に、ソロでもうまく休符を使うホールのソロ+エヴァンスのバックングの時に、その瞬間が多く生まれています。その無音の後、次にギターから入ってくるのか、ピアノから入ってくるのか、どんな音で来るのかに注意して聴くと面白いです。

◎謎に満ちた魅力的なジャケット

このアルバムは、女性が水中に漂っている写真を使った印象的なジャケットでも話題になりました。Undercurrentは底流という意味ですから、そのものズバリのイメージですし、ジャケットに、タイトルもミュージシャン名も何も書いていないという潔さもあって強い印象を与えたわけです。史上最も美しいジャケット写真と評する向きもあるくらいです。

<http://jazzlydian.com/mailmagazine/undercurrentjacket.jpg>

この写真を見て、ハムレットの登場人物であるオフィーリアが川で溺死したシーンをミレーが描いた名画「オフィーリア」を連想した人も多かったようです。そのイメージが一人歩きして、ジャケット写真の女性は本物の溺死体だなどとまことしやかに語られたこともあったようです。

[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%82%A2_\(%E7%B5%B5%E7%94%BB\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%82%A2_(%E7%B5%B5%E7%94%BB))

実際は、アメリカのToni Frissellという女性写真家がフロリダのWeeki Wacheeという泉で、水の中での女性の美しさを表現する目的で撮った写真のようです。この時に撮られたジャケット以外の写真も見つけたので見てください。これを見ると一種の商業写真なのだとは分かりますが、あのミステリアスな写真を採用したことで、アルバムの人気が高まったのは事実でしょう。

<http://jazzlydian.com/mailmagazine/anotherundercurrent.jpg>

これで3回に渡ってビル・エヴァンスを取り上げて来ましたが、音源を聴いていく過程で自分にも色々発見があり、実に面白かったです。テンションの解説などでは若干難しくなってしまったかもしれませんが、今後もそうした箇所があれば飛ばして読んで頂いて全く問題ありません。

Lydianからのお知らせ

緊急事態宣言の終了を受け、Lydianは6/1から営業を再開しました。もともと広い当店では、三密と呼ばれる状況とは遠いのですが、さらに感染防止対策を取っていますので、安心してお越しいただければと思います。ホームページにも掲載している感染防止対策は以下です。

<http://jazzlydian.com/others/counterplan2.pdf>

以上